

赤岩英夫先生を偲ぶ

1933年2月札幌市に生まれる。1960年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了（指導教官は故太秦康光教授）。理学博士。同年群馬大学工学部講師。1967年同教授。その間1964年～65年にフルブライト研究員としてシカゴ大学エンリコ・フェルミ研究所のAnders教授のもとに留学。1997年～2003年群馬大学長。その後、千葉大学監事、(社)国立大学協会専務理事、愛媛大学監事などを歴任。1995年度本会会長。1997年～2005年日本学術会議会員（第17-19期）。1983年本会学会賞受賞。2009年瑞宝重光章を受章。本会名誉会員。

2019年2月16日に、本会名誉会員赤岩英夫先生が85才でご逝去されました。先生の告別式は3月3日にご親族、群馬大学関係者、卒業生、学会の御友人、地域の方々など約250名が参列し、しめやかに執り行われました。ここに謹んでご報告させていただきます。先生は17年の春までは、大変お元気にご活躍でしたが、その4月に転倒され、療養生活を余儀なくされました。何度かご回復の兆しがあり、私たちもご快癒を期待しましたが、残念ながらそれはかないませんでした。私がお元気な先生に最後にお会いしたのは同年3月の群馬大学の卒業式でした。来賓としていらしていた先生に「欣ちゃん、4月になったらまた飲もう。」と声をかけていただき、「ぜひ、よろしく。」とお答えしましたが、それが実現しないとは、当時は夢にも思いませんでした。

先生は北海道大学の太秦研究室で博士号を取得され、その後直ちに群馬大学に赴任されました。北大では地球化学の研究をされていたそうですが、群大では軸足を分析化学に移され、放射化分析をいち早く導入し、さらに溶媒抽出法を中心とする分離分析法について、東北大学の故鈴木信男先生らとともに、この分野を牽引されました。本会学会賞受賞の主な対象となった協同抽出法に関する研究は特に有名です。

先生は本会の発展、特に、編集や国際化の分野で大きな貢献をされました。本会「Analytical Sciences」誌の創刊に多大な貢献をされたと伺っています。さらに、「分析化学」誌編集委員長として同誌の発展に尽くされました。一方、優れた語学力と何人をも包み込む大きな包容力で、国内外の研究者から絶大な信頼を得、日露（日ソ）共同セミナーの中心人物として長らく活躍されました。また、本会主催のICASにおいても国際諮問委員長を務められるなど、その発展に貢献されました。さらに、IUPACでも溶解度データの編集に長く携われました。

私が先生の学会活動として忘れられないのは、むしろ群馬大学長となられたあとの日本学術会議会員としての活動です。先生は分析化学の存在意義の社会への発信に心を配られ、様々な報告書やシンポジウムにおいて実行されました。また、日本化学連合の創立にも尽力されました。先生のこれらの活動は、広い視野に基づく極めて先進的なもので、私は、今日、その意義を再認識する必要があると思っています。

さて、先生が私を群馬大学に助教授として呼んでくだ



さったのは、1989年（平成元年）のことでした。先生とは、当時、先生が委員長をされていた「分析化学」誌の編集委員会で、初めて本格的にお会いしました。当初は普通の委員長と委員の関係でしたが、ある時、私が担当した論文の一つを却下することにして、その却下理由書の原案をつくって先生に見ていただきました。そうしたら、先生がその原案を大変ほめてくださり、ついてはうちの助教授ポストが空いているので来ないか、と誘ってくださいました。この突然のお誘いには大変驚きましたが、委員長としての先生をととても尊敬しておりましたので、喜んでスタッフにお加えいただきました。

先生は体も心も並外れて大きな天性のリーダーでした。先生は、それまでほとんど教育経験がなかった私に、教員として何が大事なのかを、自然にそして身をもって示してくださいました。一方、日常においては、私たちスタッフを信頼し、温かく見守ってくださいました。それは学生の指導においても同様でした。研究面では厳しくも合理的で本質をついたご指導をされましたが、一方で学生を人として信頼し、学生と一緒に、コンパ、野球、海水浴、スキー旅行などの研究室行事を存分に楽しめました。その中で、学生諸君は、のびのびと元気に成長していきました。先生の研究室からは300人にも及ぶ学生が巣立ち、現在、様々な分野で社会の中核として活躍しています。

先生はお酒をこよなく愛されました。酒席での先生の快活な笑顔、教養溢れる楽しいお話、また少年のような稚気は、同席するものすべてをととても幸せにしてくださいました。カラオケで得意の裏声でデュエット曲の女性パートを楽しそうに歌われる先生のことを、昨日のことのように思い出します。

先生は、大学、学会のリーダーとして、その歩むべき方向を明快に示されました。また、教育者として、研究室の卒業生はじめ多くの人々に、人生に立ち向かう自信と勇気をくださいました。心から感謝申し上げます。

赤岩先生、どうか安らかにお休みください。合掌。

〔元群馬大学教授 角田欣一〕